

內外新報

第十八號



西垣文庫 特
 文庫 10
 7352
 2



持 文庫10
7352
2

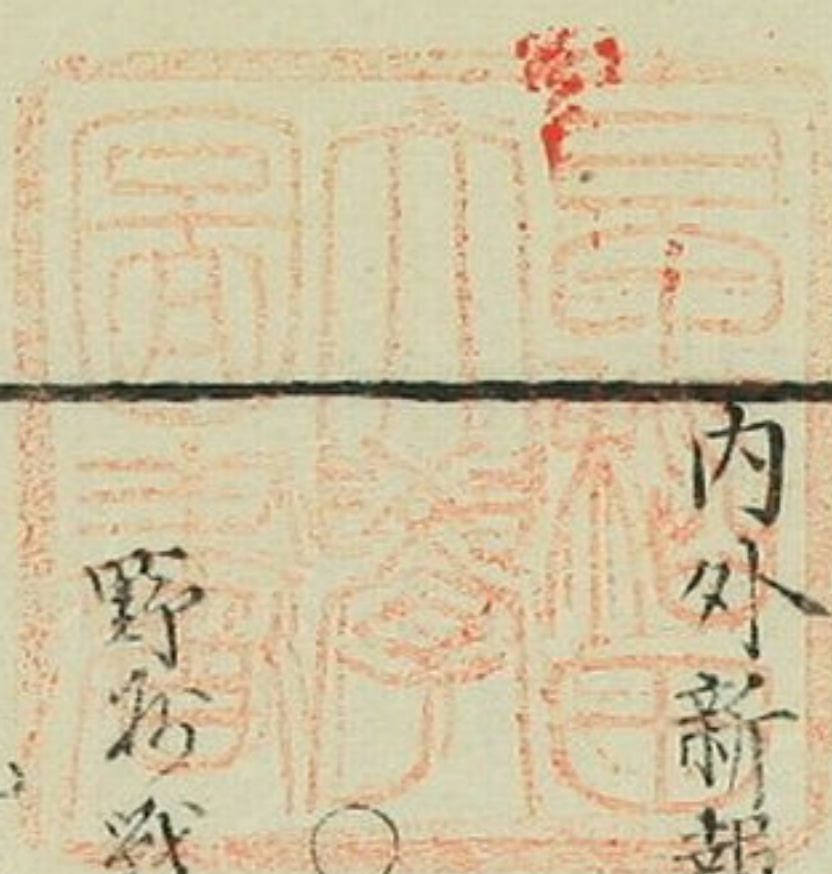
西垣文庫

内外新報第十八號

慶應四年閏四月二十二日

○閏四月二日出京より

の來狀
野村義幸一乘又付法隆西人救西探出し大坂表より
蒸氣船ありて出帆定之清地江西着と尊存外志つる
不尾物大納言極日月廿七日申仙舟守山宿西泊り女
八日大津廿九日京赴西着と類法先編と処廿日当
山宿西發智西途中より俄又西引をしまお成りて次
舟へ候所松本藩藏松代むづき板不返と英法諸
江押出し以類本善治より不打を以て名古登表江也



注進候々東地はあつしより西儀と西人殺助云日迄又
殊々此西引拂西内玉と申す大坂表は為居小元和代
極西美由西暇あつし道々西内國は極小越且又之州横
濱賀吉田屋外尾張三河遠江美濃の西大名方殊々此
西暇道々西内國と申すあつし東坂ともことこの外務ヶ
邊多々西内

○横濱新國より抄出候
横濱病院

但し法病病院及び痘瘡病院とも又けりど出来せ
し事と披露せ

右病院あつし病者を人々付一日の入費左のごとし

才一第 四ドルラ

才二第 三ドルラ

才三第 二ドルラ半

日牽人妻物人マレー人 一ドルラ

右病院に入らんと思ふ者ハ病院掛り「ダブリヨ、エイ

チ、ス、ス及び「ピケ」ト右病人ハ内儀候判り「送る

怪我人多有々「スツ」ハ入用候時ハ送出し「申す

是ハ帆本物より製したる物あつし右側又樽所り候
樽とあ人あつし相昇ニテ内へ病人を載せ恰中物臺の

ごとく其の具あり

全浪英又四き名表書繕於茶盤等の施物も病院の掛
里より受納す終事

横濱より北より八百六十八年

才曰月七日

正ゼー西井ルキン

○大坂表よりのも同書

一薩長両藩の勢軍艦あり大坂出帆の國に曰く佐渡に
押寄せまよる越後新深の西を向し松子西人殺此を
示曰五百人との事

一因曰月初日東本館より松子西人の使節

天機伺として露出種々頂戴物有之の事

○此を所日誌抄家

曰月三日城内より松子西人の兵隊 叙覽する為 松子
ありて左し通り 松子西人の兵隊

昭後五日夕刻 所敷輦流陣 天機の爲め城内に
仍幸はる 在り尚也 松子西人の事

所道第の儀の表所門より安土町通り場第右へ本町
通り谷町まで右第左へ大手第より 所入城の事
但し雨天の節の所明延の事

四月

同日雨天日付 以者所成延の角也 俣出たり
 同日夕の刻過 所發輦は為 在名属之兵隊を為す
 市沙流りし多事是を早思より 城中二の處を括ひ屯
 集せり 爲す刻城中は兵隊練 天覽所へ 着所は為
 在車又分一兵隊薩州兵隊越方の人殺隊列をとのひ令
 又陸ひ假の操練坊は進々運動祭炮を多々後々退をく
 次々才二隊長かの人殺隊を才三兵隊細川松沢北條の
 人殺隊を由順序とりつ々操練坊へ代をもくお進々運
 動發隊とある右操練坊々各藩兵隊へ酒肴を賜ふ 所

所法より才左の通り

今日彌孫左儀に於 思念柳湯着を下し賜外事
 右統陣 敵覽悉くお済し 後 所告りし々天寿甚等
 所巡覽は為 在吏介津島見下は 既所儀に才馬
 天覽了は為 在名社 俣出多り此に移々公卿法服者
 馬を所馬場と引上せ才馬を始めたりしは大に 敵意
 又叶る色々是一日は是也^{カケ}所を逐ひ見せよとの 論言
 ありき^キ頻に所を逐ひあどし々 天覽は供し甘き
 是末の才村城内 所發輦津和合より 遠事あり 在ひ

四月八日午に才刻松葉丸國「コルハット」チプレキス船の指揮官カヒテインデフリケイト第二船將「ヘルガスチエベ」チトワール外人英吉利使節官「エ、ビートホル」ト、乃在河に集、上は補弼中山野河対面あり、外國車勢馬利車誘引を蓋し過日、皇帝陛下河機強よく河長輦の御軟びを「上甘るあり」未の刻退出せり

○
同日巳に刻東本船を掛石に、乃幸ある、在儀を系なく面と、河対面あり、夫より、彼等の演武場へ、河野あり、在儀くあり、玉簾の中より、河野兵の演武と

天覽りの 托相海と 入河使く、讀書漢義の事と

河出 河産し河に在 右出親しく 天類し、天とし、其く漢義を始む、河浦肥田、其大業く、三徳順を漢し、田中國之、補孫子の謀攻篇、新田三市三畧く、上畧を係し、多し、其の如く、文武の乃を偏廢なく、至く盛く、真き、其の思食の経減し、有難き、多し、其や申く、才刻し、玉り、河機強よく、河還者、在り、せり

○同日 佐出の宮

来る十日、河の才刻抄ひあり、元陸軍下し、移り、供其、各儀法、其河機強よく、乃付、其義系し、軍防、其見、其のあり、

紅毛出陣 濟沙沽の事

四月十一日

○

月十日日付の本村より若原と兵隊元陸軍所近き所に
集せし時刻の指揮に随ひて一兵隊操練すに進み綱練
を殆ど早く屯下なる次より二兵隊代り進み綱練を
おこなふより一兵隊の進むと進み綱練を午の末
刻としくぐ終る退散す

